

## 台風被害への対策を緊急要望しました

勢力の強い台風15号、19号が、続けて関東に襲来しました。都民ファーストの会東京都議団は、島しょや地元自治体の現場に赴き、被害状況を踏まえたうえで、いずれも翌日には、要望を提出しています。

具体的には、「台風15号で被害を受けた島しょ地域への対応に関する要望」では、停電対策としての無電柱化の推進と倒木の撤去を、「台風19号による被害への早急な対応に関する緊急要望」では、多摩川の氾濫を踏まえた河川治水対策の早期実施と各種産業の支援措置を求めました。また私自身も、現場の声を踏まえ、10月30日の決算特別委員会の席で、「東京都豪雨対策基本方針」の見直しを要望しました。

浸水被害の影響は長期化する傾向があります。ご意見、ご要望があれば、ぜひお寄せください。



●台風19号の区内被害状況を会派で収集、要望に反映

## 東京2020大会のマラソン、競歩競技の東京開催を訴えました!

東京2020大会予算は総額1兆3500億円。その多く(6000億円)を担っているのは東京都、つまり都民の税金です。都民ファーストの会東京都議団は、大会成功はもちろんのこと、その後の東京の発展につながる投資になるよう関連予算を議会で丁寧に審議してきました。

都民から都政運営を託されている知事と、それをチェックする役割の議会に諮らずにマラソン開催地に関する議論が進むことに、会見・街頭活動などを通じて、断固反対を訴えました。



●世田谷線三軒茶屋駅前での活動の様子

## 都民ファーストの会 東京都議団

東京都議会議員 世田谷区選出

# 福島りえこ

都政レポート **リエコラボ** 通信 11  
2019年11月発行

リエコラボとは、私の名前とエコ(環境保全) コラボ(共創) ラボ(研究室)をかけた造語で、探求心と新しい視点を持ち、都政について一緒に考え、議論し、創り上げる会でありたい、という想いを込めています。

福島りえこが、テクノロジーの知見を活かしつつ取り組みたい政策領域は、「働き方改革の推進」「次世代教育の実現」「地域コミュニティの活性化」です。

## 令和元年第3回都議会定例会(8月27日~9月18日)

テクノロジーの活用  
本定例会より、全委員会のインターネット中継(※1)が始まりました!!

### 小池都知事の所信演説

知事はデジタル通貨や次世代移動サービスの実証実験の年内実施に加え、2つの方針を説明しました。



●小池都知事の所信演説

### Tokyo Data Highway計画(※2)

現行の100倍の速度を持つ大容量の次世代通信規格、「5G」のネットワーク構築を都が支援します。

### 《従来のインフラ》

道路、首都高速道路、新幹線

### 《Society5.0時代を迎える令和のインフラ》

電波の道

遠隔教育や遠隔診療の推進、金融市場としての競争力などを確保

### 長期戦略ビジョン(仮称)

活力ある東京を2040年に向けて創り上げるための論点を整理したものを都のHPで公開、都民の皆様や有識者の方々など、多くの方からのご意見を集めつつ、今年度中にとりまとめます。(※3)

私の注力分野、「プログラミング教育等」や「STEAM教育」、「柔軟な働き方」、「コミュニティ再生」もキーワードとして入っています。

### 代表質問

これまで会派が求めてきた以下の内容が決定しました。

- 自転車損害賠償保険の加入義務化に向けた条例改正(※4)
- 被害者の要望を汲み取った「犯罪被害者等支援条例(仮称)」の新設(※5)
- 困難を抱える方々が必要なサポートを受けて、通常の賃金で働くことのできるソーシャルファームの創設と、事業活動を認証するための「都民の就労を応援する条例(仮称)」の新設(※6)

働き方改革の推進

人に寄り添う行政を、具現化しています。

また、私がかねてより訴えている「データ利活用(データの質の確保・適切な管理・積極的な利活用)」について、責任ある体制を設けるとの返答が知事よりありました。

- その他
- 「戦略情報推進本部」の新設(今年度)
  - ヤフー株式会社元社長の宮坂学氏の副知事就任
  - 「データ利活用」の体制整備

都保有のデータの活用による、行政の効率化、産業の活性化に向けた環境整備が進んでいます。



※1 ネット中継



※2 TDH計画



※3 ビジョン



※4 自転車



※5 犯罪被害者



※6 就労支援

地域コミュニティ活性化 毎月1日は「1stの日」都政に興味のある方は、是非お立ち寄りください!

毎月1日の17:00~19:00は、都政相談会を開催しています。

冒頭は、議会の最新情報を簡単にご説明し、後半はフリーディスカッションをしています。テーマは、選択的夫婦別姓や、結婚に対する機運醸成、教育現場の長時間労働や、軽度障害のお子様への対応、再生プラスチックの普及や、政治への興味を高める取り組みなど種々、広範囲にわたっています。お気軽にご参加ください。

出張 **リエコラボ** 福島りえこと一緒に話そう、考えよう

開催場所  
「BonAtelier」店内  
世田谷区新町 3-20-3  
東急田園都市線 桜新町駅より徒歩3分

開催時間等詳細は、お電話またはメールにて、福島までご確認ください。(最下部に記載)



毎週水、木の朝6:30~8:30は、区内の駅で街頭活動をしています。

皆様の声を都政へ届けます!

■発行元/お問合せ

都民ファーストの会東京都議団  
東京都議会議員

# 福島りえこ

E-mail QR

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都議会議事堂5階  
TEL 090-8345-6086 FAX 03-4243-2721

E-MAIL tomin1st.fukushima.rieko@gmail.com



### プロフィール

1971年世田谷区桜上水生まれ、世田谷区新町在住。東北大学大学院理学研究科修了後、民間研究機関に22年勤務。2017年より東京都議会議員(1期目)。文教委員会理事、都政改革検討委員、第25次東京都消費生活対策審議会委員。



# Check! ラボ1 グリーンインフラと世田谷区

7月7日、三茶しゃれななどにて、ゲストに「グリーンインフラ」の専門家であらっしゃる九州大学の島谷幸宏教授と、3期目の公約にやはり「グリーンインフラ」を取り上げる保坂区長をお招きし、第5回都政報告会を開催しました。

都は平成26年度に策定した「東京都豪雨対策基本方針」の中で、30年後の姿として、以下をかかげ、下水管など排水設備の拡充に取り組んでいます。

- 時間60ミリ降雨までは浸水被害を防止
- 時間75ミリ降雨までは床上浸水等を防止(区部)
- 目標を超える降雨に対しても生命安全を確保

しかしながら、近年の集中豪雨は、時間100ミリを超えることもあります。ここで期待されるのが、自然のもつ保水機能を街で活用し、雨水が河川や下水管に流入する速度を抑えて、浸水被害を減らす「グリーンインフラ」です。既に欧米で導入が進んでおり、従来課題だった防災・減災性能のシミュレーションの精度が向上したことで、国土交通省も推進しています。(\*7)



●ゲストの保坂区長、島谷先生と



※7 グリーンインフラ



※8 補助事業

島谷先生によれば、「グリーンインフラ」の特徴は以下の通り。

- コストが安い
  - 導入が早い
  - 都市がきれいになる
- 都市間競争に勝てる

ご自宅に、雨水浸透ますや雨水タンクを設置するなど、「グリーンインフラ」化することで、地域の浸水被害を軽減できます。世田谷区には、都の補助金を利用した補助事業(\*8)もございます。

ご参加いただいた31名の皆様からは、「グリーンインフラを知らなかったが、興味をもった」という声を多数いただきました。これからも、都政関連のテーマを厳選してとりあげてまいります。

# Check! ラボ3 子どもたちと日本の未来を創るプログラミング教育

次世代教育の推進

10月5日、三茶しゃれななどにて、ゲストに小池百合子東京都知事と、未踏ジュニア(\*9)代表の鵜飼佑氏、元IBM・現神戸市立科学技術高校教頭の中野由章先生をお招きし、第6回都政報告会を開催しました。

冒頭、都知事は「2020とその先の東京」と題し、「世界の株式総額ランキング」を示しながら、産業の中心がものづくりからサービスやソリューションに移行する中で、都が「Tokyo Data Highway(TDH)基本戦略」と称して5Gという大容量通信インフラ整備を推進すること、そして、「国力=(人口力+経済力+国防力)×(戦略+意思)」という方程式を示し、戦略をもって都政を運営するという意思を示されました。



●都政運営の方針を語る小池都知事

## 世界の株式時価総額ランキングの推移

1993年	2007年	2017年
1 NTT 日	1 ペトロチャイナ 中	1 アップル 米
2 GE 米	2 エクソン・モービル 米	2 アルファベット 米
3 AT&T 米	3 GE 米	3 マイクロソフト 米
4 エクソン 米	4 チャイナ・モバイル 中	4 フェイスブック 米
5 三菱銀行 日	5 中国工商銀行 中	5 アマゾン 米
6 日本興業銀行 日	6 マイクロソフト 米	6 バルネット・ハルウェイ 米
7 住友銀行 日	7 ガスプロム 露	7 アリババ 中
8 第一勧業銀行 日	8 ロイヤル・ダッチ・シェル 蘭	8 テンセント 中
9 富士銀行 日	9 AT&T 米	9 ショッピング・オンライ 米
10 三和銀行 日	10 シノバック 中	10 エクソン・モービル 米

次に、今回のテーマである「プログラミング教育」です。5G環境を活用し、暮らしを豊かにするサービスを提供するサービスやソリューションを作るのは「人」であり、次世代を生き抜く子どもたちが、仕組みを理解し、開発ツールであるプログラミングに触れ、学ぶことは、「TDH基本戦略」と両輪ともいえる重要な取り組みです。文部科学省は、新学習指導要領のなかで2020年より小学校から段階的に必修化することを定めていますが、教育現場はプログラミングが得意な教員ばかりではありません。自身が習っていないことをどう教えるかは大きな課題です。

このような現状を踏まえ、次に登壇した鵜飼氏のご講演の中で、都が「プログラミング教育」の必修化にあたり取り組むべき事項として、次のご提案をされました。



※9 未踏ジュニア

## 都が取り組むべき課題(鵜飼氏より)

- コンピュータサイエンスを学んだ人材が、授業・カリキュラム策定に関わる
- 学びたい子が学べるように、クラブや部活動、民間との交流の場(インターンシップ含め)を用意する
- 先生の情報リテラシーに依存して学校ごとに取り組みに差がでないように、先生に向けた教育を行う

続いて、以前IBMで勤務されていたため、民間と教育分野の双方のご経験をお持ちの中野由章先生にもご参加いただき、パネルディスカッションを行いました。ここでは鵜飼氏が都民がプログラミング教育の充実を求めれば教育委員会も動くこと、中野先生はパソコン甲子園などで活躍するプログラミングがすごく長けている生徒について、様々な外部リソースを使い、先生が抱え込まないことが大切だと述べられました。

参加者の皆様との質疑は以下のとおりです。



●鵜飼氏、中野先生とのパネルディスカッション

参加者

創造性を養うには、家庭では何に組み込めばよいか

鵜飼氏

幼稚園からプログラミングさせれば良いというものではなく、ITに関わらず、好きなことをとことんやる事が大切

中野先生

いろんな事を知りたいという興味・好奇心が大切で、親や教師が、わくわくしている姿を子どもたちにいっぱい見せることが大切

「プログラミング教育」というキーワードに興味をもっていたいただいた141名の方にご参加いただきました。

今回の取り組みをはじめとして、都民の皆様、教員の皆様、情報処理学会等の専門家などのご意見を伺いつつ、都の教育体系をアップデートしてまいります!



●会場の様子

# Check! ラボ2 箕面市立箕面小学校の視察 ~インクルーシブ教育の素晴らしさ~

次世代教育の推進

8月29日、都民ファーストの会東京都議団の文教委員会所属メンバーで、多様な子どもたちが共に学べる環境(インクルーシブ教育)で先行する、表題の小学校を視察しました。

大阪府箕面市では、都内だと特別支援学級または特別支援学校に通う、障害のある生徒が、普通学級に通う生徒と共に学べるように、市内の全小中学校にエレベーターやスロープを整備するとともに、支援教員、介助者(看護師資格有/無)を必要数配置、加えて、東京都では認められていない、看護師による(医療的ケア児の使用する)呼吸器の操作を認めるなどしています。

発達障害のある、または、医療的ケアを受けている生徒と、その他の生徒が、互いに関わり過ごす様子は、学校や学級を分けることが不思議に思えるほど自然でした。加えて、箕面市では、障害のある生徒の保護者が就労できています。まさに、障害は社会が作ること(障害の社会モデル)を実感しました。

都で同じ環境を実現するには、ハード(校舎)やソフト(人)の拡充という課題がありますが、インクルーシブな環境で育つことは、次にあげるような「心を育む大切な機会」であり、分けて育てる教育は、その機会を奪っているともいえます。



●介助者のサポートのもと、普通教室でともに学び(左)、共同作業になると、医療的ケアを受ける生徒の周りに自然に集まる子どもたち(右)

- お互いの違いを認め合う(思いやり)
- 一人ひとりが快適に過ごせる社会の実現にむけて行動する(主体性)
- 課題解決のために協力する(協調性)

障害のある人の法定雇用率を満たす、満たさないが社会問題になったり、道徳が教科化されたりしていますが、インクルーシブ教育はより本質的な取り組みです。

「箕面市の子どもは優しいと言われます」との言葉が印象的でした。